

令和3年度“超”を目指す軸受技術研究会報告

“超”を目指す軸受技術研究会（会員提案，21年度，主査 平山朋子）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っていろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度の委員数 15 名で，京都市内施設を開催場所とし，1 回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第 62 回研究会（令和 3 年 12 月 18 日 於：KKR 京都くに荘） ①表面テクスチャリングによるメカニカルシールの高性能化に関する基礎的検討（イーグル工業（株） 井上秀行），②面接触混合潤滑下におけるマイクロディンプル効果の評価（京都大学 村田誠志，平山朋子，安達眞聡，ヤマハ発動機（株） 藤田英之，倉垣内直賢），③未利用熱を有効活用する ORC 装置の事業化（（株）馬淵工業所 遠藤聡，相澤直信，小野寿光，東京大学 早瀬功，福島敏彦，香曾我部弘勝，鹿園直毅，宮城県産業技術総合センター 浦啓祐，阿部一彦，曾根宏，氏家博輝，持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会（JASFA） 前田圭一郎，小山克博）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年 3 回の研究会の開催を予定している．

URL: <https://www.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>